別海町立野付小学校　学校便り

三角帆

◆発行責任者　校長　青坂信司

◆発　行　日　平成２４年９月１０日

平成２４年度学校テーマ「学び続ける学校」　第８号

※月の初め以外にも、この学校便りを不定期ですが発行していきます。

続・「つながり力」と優しい心

校長　青坂　信司

◆先週、５年生担任の飯田先生が研修で出張していました。他の先生方が、その代わりに入りました。私は、１時間でしたが算数の授業をしました。久しぶりの授業です。その中で印象的な事があったので紹介しましょう。

◆算数「平均」の授業。計算場面ではちょっと面倒なところもあるため、電卓を使ってもよいということになっています。授業の後半部分で電卓を使います。私は、授業前に用意しておいた学校にある電卓を子ども達に手渡ししていきます。５年生は、２０名以上いるのですが、机の間を歩きながら一人ひとりに丁寧に電卓を渡していきます。たいていの子は、何も言わず受け取ります。別にそのことに気にも留めず次々に私は手渡していきます。

◆すると、ある男の子に電卓を手渡した時、「ありがとうございます」と小さな声で私に言ってきました。私はびっくりしました。感謝されることを期待して一人ひとりに手渡していったわけではありません。しかし、その子は私から電卓を受け取り、感謝の言葉である「ありがとうございます」と言ってきました。その言葉を聞いて私の心の中にポッと灯りがともりました。うれしい気持ちになりました。

◆授業の最後、電卓を私に返却し、休み時間となります。一人ひとりが、私の前にある電卓を入れる小さな段ボール箱に入れていきます。多くの子は、早く休み時間にして遊びたいので、黙って電卓を入れていきます。その時、ある子が「ありがとうございました」と明るい声で言ってきました。先程とは違う子です。その後、別の子も「ありがとうございました」と言ってくれます。合計４名の子たちが、私に「ありがとうございました」と言ってくれました。これもまた、私の心を明るくしてくれる出来事でした。

◆私から電卓を手渡してもらって「ありがとうございます」と言った男の子。その子は、誰かに強制されたというのではなく自然に口から感謝の言葉が出てきたのかもしれません。家庭教育の立派さを見る思いがしました。

◆授業の最後で「ありがとうございました」と言ってきた子たち。この子たちも、感謝の言葉が自然に口から出てきたのかもしれません。もしくは、先程の男の子の言動を何気なく見ていて、真似をしたのかもしれません。仮に真似をして「ありがとうございました」と言った言葉でも、素晴らしいことです。「人の良いことを真似をする」というのも、とても大切な人としての資質なのです。「そんなことはどうでもいい」と思っている子は、よりよき人とはなっていきません。

◆「人の悪いことは真似ない」しかし「人の良いところは真似る」そんな子に、これからもなってほしいと私は願っています。「人の良いところを真似る」というのは、人とつながることです。こんなところにも「人とつながる力」というのがあるのだと思います。